

東洋大学機械工学科卒業の 先輩に聞く！

第3回 ものづくりの「始め」をやっているって思う。

今回はリクレーターとして本校を訪れた入社二年目の菊池良祐さんに突撃でお話をききました。

三和工機株式会社 メカトロ第五技術部技術一課 菊池良祐 さん (2013年学部卒業)

—今の会社を選んだ理由を教えてください。

ものづくりがしたいと思っていました。もともとは、ものづくりとは現場で生産やメンテナンスをするものだというイメージを持っていました。ですが、3年生科目の「設計製図法および演習」で、図面を描いて、それがモノとしてできあがったときに、ものづくりにおける図面の魅力を感じました。

—今のお仕事について教えてください。

様々な企業から発注された設計図を描いています。昨年、入社一年目にはエレベーターのかご(人が乗る部分)の設計をしました。これは3~4人でグループを組んで設計しました。僕も部品図や組み立て図など、100枚くらいの図面を描いたと思います。学生時代に講義で使った機械設計製図便覧がとても役に立ちました。今年5月からは国際熱核融合実験炉に関連した設備の設計をしています。このプロジェクトは欧州、アメリカ、中国など多くの国が参加しているものです。その一部の機械設計を請け負っています。先輩がアドバイザーとして相談ののってくれますが、今は発注元の企業の担当者と1人でやりとりをすることもあります。

—仕事のやりがいを感じるのとはどんなときですか？

学生時代は勉強して学んだことの結果は試験の点数でしたが、今は学んで自分が身につけたことの結果が形になる、世に出るという実感があります。自分が描いた図面が製品化されること、それが世の中にあるということにやりがいを感じますね。図面を描く仕事なので、実際にはまだ製品は目の前にはないのですが「ものづくりの始めをやっている！」と感じます。今は図面をみて、どう使うのかというイメージが湧くようになりました。

—仕事は忙しいですか？

仕事の内容や納期などでも変わりますが、今はほぼ定時で帰ることができます。昨年は1ヶ月間くらい11時の終電帰宅が続いたときがありました。でも、仕事を任せてくれる上司が僕の成長を期待してくれていると感じてい



たので、その思いに応えたいと思ってがんばりました。その忙しい時期を乗り越えた後、以前はできなかったことが簡単に思えたり、理解できたりすることが増えました。仕事のやり方が判って成長したと感じます。

—今の目標は？

やったことのない仕事にチャレンジしていきたいと思います。今はまだ先輩がアドバイザーとしてついてくれて助けてくれます。早く先輩達のように人に教えられるようになって、1人で何でも仕事をこなせるようになりたいです。先輩達から一人前の技術者になるには10年はかかると言われます。早く一人前になって、その10年という数字を覆したいと思っています。

—先輩に一言お願いします。

会社では上司とコミュニケーションがとれることが必要です。コミュニケーションとは、自分が伝えたいことを相手に伝えられるということです。そうすれば、仕事をまかせてもらえるようになります。完成させた仕事の数は自分のモチベーションに繋がります。大学は高校までとは違って、離れた地域からも人が集まってきたので、背景の違う人達とコミュニケーションをとる環境でした。今思うと、大学は社会人になるスタートだったと思います。

☆今回の先輩が勤めている会社☆

三和工機株式会社:1959年創業。生産設備や自動車、電気電子機器などの設計開発業務を行っている会社です。東京スカイツリーの業務用エレベーターの設計も手がけました。

あとがき 今回は来校した卒業生にいきなりインタビューをしたので分量は短めです。実は自他ともに設計の仕事に就くとは思っていなかったそうで、友人からもよく続いているねと言われることがあるとか。でも、今は設計の仕事がとても楽しいとのことでした。皆さんと年も近いのでより参考になるのではないのでしょうか。では、また次回！（担当：山川）